

年間第 17 主日 (マタイ 13:44-52)

彼は持ち物をすっかり売り払って、「宝」を買った



同級生の下窄神父が亡くなってから、考えられないミスを犯しました。先週の日曜日は浜脇のミサに行ったのですが、浜脇の田ノ浦港から教会まで移動する軽自動車の鍵を持ってこなかったのです。「しまったー」と思い、週が開けてからは修道院担当なのでもう一度久賀修道院に行きます。「このときは忘れずに持っていくぞ」と思ったのですが、私が福江港からフェリーに乗って渡るとき、自分の車に久賀の車の鍵を平然と置いてきたのです。

これにはがっかり来しました。いつも、どんな状況でも、すぐ切り替えが利く人間だと思っていたのですが、よほど動揺しているのか、いまだに日常に戻れません。この前チャンスをいただいて釣りに出かけましたが、「釣りができるのも生きているからだよね」としみじみ思いながら、リールを 30 回くらい巻いては海の底にまた落とす釣りなのですが、思い出しては「アヴェ・マリア」の祈りを唱えてリールを巻いていました。いつかお前と（下窄神父のことですが）こんなことができたらと思ったけれども、さっさと逝ってしまったので、一人取り残された気分です。

この前、教会学校の一学期終了ミサのとき、「みんなが、『もう十分生きた。これ以上生きる必要はない』と思う年齢はいくつですか？」と問うたのです。7月16日、下窄神父が亡くなった翌日でした。「小学一年生に聞いてみようかな。君はどう思う？」と男の子に尋ねたところ、きっぱり「60歳」と言われました。私自身も60歳です。「もう十分に生きた。これ以上生きる必要はない」そういう年齢に、この子には映っているのか。頭の中で、期待していたことがガラガラと崩れ落ちました。

まあ、そうかもしれません。私だって小学生の時（50年以上前のことですが）、60歳といえば相当な年寄りに映りました。老いさらばえと思いました。だから一年生の子が同じことを言っても、なにも不思議はないことです。しかし現実の私は、自分にはまだ十分時間があると思っていますし、先に60歳で逝ってしまった下窄神父に「早すぎるよ」と声かけながら、彼のためにロザリオを唱えるのです。それが、小学一年生の答えに対する精一杯の抵抗です。

福音朗読に入りましょう。前半の部分です。「畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。」（13・44）いくつかの可能性のある部分を、一つに絞ってから考えてみましょう。「畑に隠されている宝」は何でしょうか。「そのまま隠しておき」とありますが、それ相当の商人であれば、たとえ隠されている宝であっても、同じように見つける可能性はなかったでしょうか。

ほかの目利きの良い商人でさえ見つけることができないと踏んで、

この商人はそのまま隠しておき（つまり畑を掘り起こしたりしなかったのでしょう。それで足がついて、ほかの商人に見つかる可能性があります）、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買います。ここにも異論の余地があります。持ち物をすっかり売り払うのは、畑を買う十分な資金を確保するためでしょう。しかしもし私が、この商人の立場だとしたら、畑は安く買ったと思います。そもそも、誰の目にも、隠されている宝は見つけられないのです。わざわざ高い値段で畑を買うのでしょうか。私だったら、畑の値段だけで済ませると思います。

しかしそれでは、持ち物をすっかり売り払うというのも納得いきません。それに、畑一枚の値段で買おうとすれば、ほかの商人に宝があると知らずに買われてしまう可能性もあります。そこで私はこう考えました。「畑に隠されている宝」は、どの目利き商人も血眼になって探している宝だったのではないか。そしてもし、「畑を買い取ろう」と申し出る商人が複数いたとしても、絶対に競り落とせるだけのお金を準備したのではないか、ということです。

私たち全員が、目利きの鋭い商人だとしましょう。見つけさえすれば、持ち物をすっかり売り払って買い取るつもりがあるとしましょう。その、血眼になって探している宝は何でしょうか。「金」でしょうか、「ダイヤモンド」でしょうか、あるいはもっと他のものでしょうか。現代であれば、「ビットコイン」でしょうか。

もちろん、賢い皆さんはお分かりでしょう。誰もが知っている、そして血眼になって探している「隠された宝」とは、神様の永遠の命です。誰もが知っていて、誰もが探している宝は、これを置いてほかにならないでしょう。その宝を手に入れるのは、唯一、持ち物をすっかり売り払って、ほかの誰が値段を提示してもそれを上回るだけの資金を準備している人です。それは誰でしょうか。いろいろ考えられるかもしれませんが、私にとってそれは下窄英知神父です。彼は日本人男性の平均寿命 81.35 歳からすれば、残り 21 年ちょっとを、すっかり売り払って、「隠された宝」である「永遠の命」を買ったのです。

分かっていますよ。私も残りの人生をすっかり売り払えば、今すぐに「永遠の命」を手に入れることができるでしょう。でも無理です。「生きていればこそできること」がまだいろいろあるのに、それを全部売り払って永遠の命を手に入れるなんて、今の私にはできません。魚釣りに行って、大魚を一匹バラしました。ガッチリ口にかかったはずの針が、折れて逃げられたのです。針が折れるってどんな大物だったのでしょうか。くだらないと言われるかもしれませんが、あのドキドキをすっかり売り払って、永遠の命を今買うか。私には無理です。その意味で、下窄神父はたいしたもんだと思います。

年間第 18 主日(マタイ 14:13-21)